

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22059

建築物名称	中部児童相談所新築工事
建築主	川崎市長 福田 紀彦
建築物の所在地	川崎市高津区末長1丁目276-5の一部
設計者氏名、建築士事務所名	今井 博康 有限会社アトリエ アイズ 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,459.92㎡
用途	官庁署(保護所)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上4階
工事完了予定年月	令和7年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	中部児童相談所新築工事		階数	地上4F
建設地	川崎市高津区末長1丁目276-5の一部		構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域・準防火地域		平均居住人員	120人
地域区分	6地域		年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定		評価の実施日	2023年1月24日
敷地面積	2,108 m ²		作成者	今井 博康
建築面積	1,210 m ²		確認日	2023年1月24日
延床面積	3,460 m ²		確認者	今井 博康

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.9/4.3	2.2
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.8
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.7/1.2	2.8
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.76	2.9/5.0	2.9
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水コマなどに加えて、省水型機器などを採用している	2.9/4.7	3.1
2 非再生性資源の使用量削減	躯体+LGS+仕上材、GL工法を採用している		
3 3.2 フロン・ハロンの回避	ODP=0、GWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材を使用		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用	0.3/0.5	3.0
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水コマなどに加えて、省水型機器などを採用している	2.4/4.0	3.0
2 非再生性資源の使用量削減	躯体+LGS+仕上材、GL工法を採用している		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.7
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.76	2.9/5.0	2.9
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.8**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		2.9/5.0	2.9
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	
G	W	R	H			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境										2.8
1 音環境										2.2
1.1 室内騒音レベル										3.0
1.2 遮音										2.2
1 開口部遮音性能										1.0
2 界壁遮音性能										3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										-
1.3 吸音										1.0
2 温熱環境										2.6
2.1 室温制御										3.0
1 室温										3.0
2 外皮性能										3.0
3 ゾーン別制御性										3.0
2.2 湿度制御										1.0
2.3 空調方式										3.0
3 光・視環境										2.3
3.1 昼光利用										1.8
1 昼光率										1.0
2 方位別開口										-
3 昼光利用設備										3.0
3.2 グレア対策										2.0
1 昼光制御										2.0
3.3 照度										3.0
3.4 照明制御										3.0
4 空気質環境										3.6
4.1 発生源対策										4.0
1 化学汚染物質										4.0
4.2 換気										2.0
1 換気量										3.0
2 自然換気性能										-
3 取り入れ外気への配慮										1.0
4.3 運用管理										5.0
1 CO ₂ の監視										-
2 喫煙の制御										5.0

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9	
1 機能性					2.4	0.40	4.0	1.00	2.7
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性			住居・宿泊部分:個室10m ² /床、かつ多床室8m ² /床以上		-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応					-		-	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観			住居・宿泊部分:天井高2.5m以上		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				1.0	1.00	1.0	0.50	
3	内装計画				3.0	0.30		-	
1.3 維持管理					3.0	0.50		-	
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性					3.4	0.30		-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.8	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			基準法の25%増の耐震性を有する	4.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		2.0	0.20		-	
2.4 信頼性					3.2	0.20		-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3	電気設備				3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			耐震クラスAとしている	4.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					2.8	0.30	2.6	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					2.6	0.30	2.2	0.50	
1	階高のゆとり				3.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	0.40		-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性				3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.3
1 生物環境の保全と創出				G	W		H		2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G					2.0
3 地域性・アメニティへの配慮									3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上									3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H		3.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.0
LR1 エネルギー										2.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H	BPI=0.76	5.0	0.20	-	-	5.0	
2	自然エネルギー利用	W	H		3.0	0.10	-	-	3.0	
3	設備システムの高効率化	W	H	[BEI][BEIm] = 1.00	2.0	0.50	-	-	2.0	
4	効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング	W	H		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制	W	H		3.0	0.50	-	-		
	集合住宅の評価						-	-		
4.1	モニタリング	W	H				-	-		
4.2	運用管理体制	W	H				-	-		
LR2 資源・マテリアル										3.1
1	水資源保護	W	R		3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1	節水			節水コマなどに加えて、省水型機器などを採用している	4.0	0.40	-	-		
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減				2.8	0.60	-	-	2.8	
2.1	材料使用量の削減	W	R		2.0	0.10	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W	R		3.0	0.20	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R	-	3.0	0.20	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R	-	1.0	0.20	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W	R		2.0	0.10	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W	R	躯体+LGS+仕上材、GL工法を採用している	5.0	0.20	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.7	0.20	-	-	3.7	
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-		
3.2	フロン・ハロンの回避				4.0	0.70	-	-		
1	消火剤	W			-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	W		ODP=0、GWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材を使用	5.0	0.50	-	-		
3	冷媒	W			3.0	0.50	-	-		
LR3 数地外環境										3.0
1	地球温暖化への配慮	W			3.0	0.33	-	-	3.0	
2	地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-		
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W	H	3.0	0.50	-	-		
2.3	地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		R		3.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		R		3.0	0.25	-	-		
3	周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-		
1	騒音				3.0	1.00	-	-		
2	振動				-	-	-	-		
3	悪臭				-	-	-	-		
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制						-	-		
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-		
3.3	光害の抑制				3.7	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策チェックリストの一部項目を満たす。屋外広告物なし。	4.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-		